

耕作放棄地を、有効活用したい

～地域活性化に、オリーブ栽培を始めた～

NPO 法人やまぐちオリーブ協会 白松博之

1、経緯

耕作放棄地に適した作目に、オリーブの栽培に着目

○この地域は、あらゆる農作物が猿、猪などの被害が酷い、しかしオリーブは渋みが強く、サルの被害に遭わないのではないかと。

○寒さに弱いと言われているが、-11度までを実証

○国産オリーブの自給率が0.3%



2、栽培希望者に苗木を配って、7か所で栽培試験

100本の苗木を配布するも、ほとんどが失敗、タダで貰ったものに本気度は生まれなかった

3、県が行うビジネスコンテストに応募



準グランプリの賞金100万円をもとに、NPO法人を立ち上げ、自らが経営を決意するとともに、栽培特許を取得販売

当社の取り組み状況について



4、特許について

- ①早くから収穫できる
- ②収穫しやすい樹形
- ③小面積で高い収穫量

5、技術のさらなる向上を目指して

何故そのままで結実しないのかを、徹底究明するために、肥料成分、剪定、振枝、土壌成分などの研究に重点を置く。

6、後継者の発掘、養成

県内の耕作放棄地にオリーブを植えてもらうためのPR活動を展開